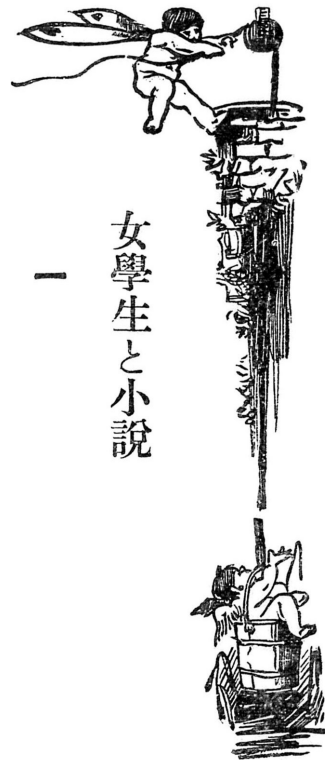




女學生と小説

國木田獨歩氏談

女學生に小説を讀ませてはならぬと云はゞ同時に男學生にも讀ませてはならぬと謂はなければなりません。

小説が女學生の品行とか風紀とかを亂す原因だと云つて讀ませないと何程あせつてもとても六ヶしい、學校では讀ませないでも家庭で讀めば何にもならない、成程小説中の如何はしい戀愛などを女學生が眞似をするとか、感化するとかいふ心配はあるであります、若しさういふ事を心配し出したら、まづ新聞を讀んではないと云はなければなりません。

新聞の三面記事は一種の小説であるとも言ふ事が出来るてはありませんか、新聞を讀ませないと假りにしましても、世上毎日自分の周圍に起る出來事も、よい事だけ知らせて悪い事は知らしてはならぬといふ事になるてはありませんか、親は娘を箱の中にしまつて置き、學校は學生を門外一步も出さ

ない様にでもしなければ、教育する事は出来なくなる、けれど箱入娘に虫がつくとかいふ俗謡さへあるのであります、心配すればする程、得て虫がつき黴が生へるは多くの例がある事であります。

私は教育者を惡くいふのではありませんが、女學生に小説を禁ずるなどいふ事は餘りに神經過敏の舉動ではありますまいか、根本の人格養成とか理想とかを第二にして、枝葉の恰度、重箱の角でもほじくるやうな、穿鑿的心配は何の益にも立つ事ではありますまい。

前にも申上げた通り、日常自身の周圍の事情が小説である以上、其世上をうつした、人情を説明した小説を讀むなど云つて、それで風紀なり品行なりを取りしまらうとするのはどうも一牒譯が分らないてはありませんか。

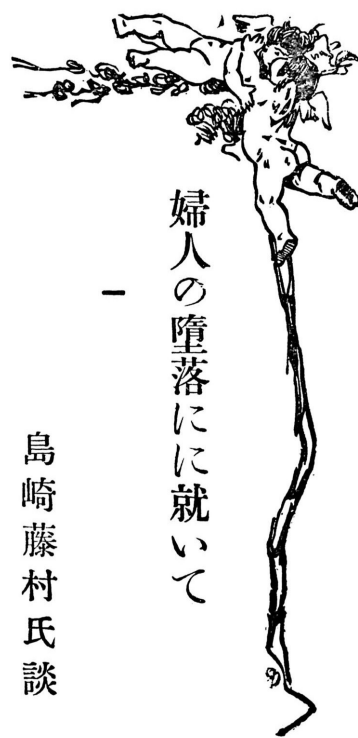
若し小説を讀まぬせといふ事にしたら、演劇も見ではなくなる、今度大分大きな演劇場が設立さるゝ計畫があるさうであります、まづ第一に學生の風紀を亂すものであるからと、取締ひの命令でも發しなければなりません。のみならず古今集もいけぬ、源氏物語もならぬ、家庭に於てかるた會を催すなどは最も嚴禁すべきものである、といふ風に成て参ります。

要するに私の説は女學生に小説を讀ませるの讀ませぬのと云ふやうな事は餘りに重きを置く必要はあるまいと思ふので

風でした。其様子から察すると、男が其女を用つて、娘を呼
び出させた様なのです。そして其娘も男も何れも十五六なの
です。

女の子の所へ其友達が遊びに来る、親達は温順しい娘だと
いつて信用する、そして此方からも行きたいと言ふまゝに遊
びにやる、甚しきは縁日などへも遣るなどいふのは、實に
危険な事です。若し其友達に男でもあるとか、或は男の友人
でも紹介するとか言ふ事があると、其様な事から墮落して行
きます。

けふとてや大宮人の白妙にかされて着たるせみの羽衣
きのふまで袂にそめし花の色のかたみも知らぬ衣かへかな
なにしかも花の色にも染にけん袖の別れの夏は來にけり
今さらに藤もつじもふかき色を春のものと猶や詠めん



婦人の墮落に就いて

島崎藤村氏談

小心な神經質な女姓がどうして墮落するか。いづれそれに
は下地が無ければなりません。言ひ換へると、性格の缺陷と
いふことが有りませう。無智、懶惰、浮氣、過度の虛榮心等
はそれです。無智から墮落して行く者は人生の智識に乏しく
情の表裏を観透することが出来ず、相手の男は果して頼母しい
心を持つて居るか、それとも人を弄ぶ意で居るのか、其底を
見えないからです。世故に長けた者の眼からは危くて堪らな
い様な男に對しても、當人は豪くないまでも普通の男ぐらゐ
に考へて居るといふのは、往々あることです。初心な、單純
な、地方出の女學生などが誘惑され易いのは、この透視する
力に乏しいからでは有りますまいか。懶惰から墮落して行く
ものは、生活といふことに就いて眞面目な考を持たず、遊ん
で居て甘いものを食ひたいといふ女でせう、浮氣の爲に墮落
するのは畢竟抵抗力が薄いからです。感染性の強い女は、

には岩倉會長を始め池田細川兩侯爵夫人、加納子爵夫人板垣、酒井、阿部伯爵夫人、其他評議員幹事等早朝より詰懸け諸般の準備に餘念なく三々五々打連れて遺族の通りかゝるを見受くる毎に何うぞ此方へとて丁寧に請じ入れ紀念品を贈り茶菓を侑むるなど貴顯の身を打忘れたるもてなし振りは遺族をして心の底より感謝の念を起さしめぬ。又將校婦人會に於ても寺内陸相夫人、黒木大將夫人、片岡中將夫人外數十名の將校婦人會員少しも休憩の隙なく全く立切りにて遺族の接待に努られ、遺族等は後にてあれは唯々の夫人なりと聞き就れも貰ひたる菓子を押戴さて有難がり居たる者多かりしといふ。

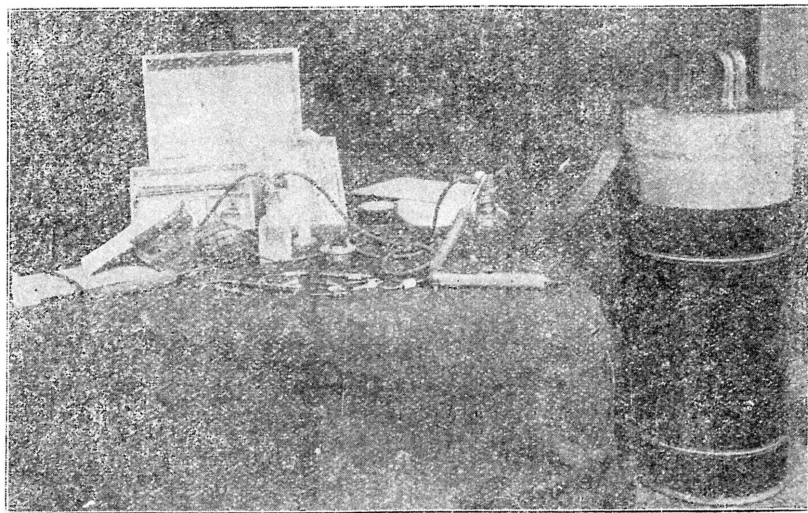
焦 畫 (畫報参照)

跡見玉枝女史

跡見玉枝女史が米國から焦畫の器械を持ち歸られ、今は多數の生徒に教授されつゝあるは人の知る所、今回の婦人博覽會演習部には、女史及び門下の令嬢が世に廣く焦畫を紹介せんと熱心から、演習の有様を公衆に示されつゝあります一日女史を今川小路に訪問し焦畫に就いて種々面白き談話を承りましたから、世の夫人令嬢方の爲めに御紹介いたす事としました(記者)

私が米國に参りました紀念に何か日本の婦人方に有益なお土産を持つて歸りたいと思ひまして、種々探します内に、聖路易の博覽會の中に焦畫を致して居る所があつて、これこそよいお土産である、器械を購入して参りました。

日本では餘りに中流以上の御婦人方は内職をなさいませんが、寧ろ内職を耻辱と心得て居る、方々が多い様ですが外國では中流以上の婦人が盛んに内職をして居られます。この

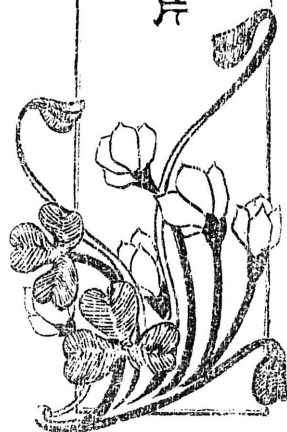


焦繪なども婦人の内職中で盛んに行はれて居るものでして、第一裨裁も宜し、資本も入らず、高尚な楽しみともなるものですから婦人方の職業としてのみでなく娛樂としても最も適當なものだらうと考へます。

焦繪とはどんなもの

と申しますと、焦いた金屬製の筆で書きますので、桐の火

名家談片



西洋人と交際の心得

新渡戸 稻造 氏

▲現今日本に於ては何も斯も西洋ばかりになつて西洋の事情に精通して居る人もあるし、或は本國に居つても外國人と往來して居る人が割合に多く、到る處に交際が行はれて居る、又如何なる田舎に行つても外國人を見ないことはない。それ程外國人と日本人との間に廣く交際が行はれて居るが、其の交際は極く表面的であつて一向親密がない、我が日本人は實際上これでも乾燥無味なることを感じないのであらうか、西洋人の書いた物を見ても日本人の心情を穿つことは出来ない、本統の情を穿つことは出来ない、如何に親密を深くしても心の底が解らぬと云ふことである。少々のことでは喜怒哀樂を面に表はさぬことを以て誇つて居る國民であるから、他人が見て嬉しいのやら悲しいのやら更に表情が無い、故に西洋

人が大變に交際がしにくいと言ふのも無理はないと思ふ。私は今言ふた喜怒哀樂の表情を一の教として實行して居る。日本人は敵愾心と言ふか對外心と言ふか兎に角己れの親族或は地方的關係のあるもの以外に對する交際は至極下手である、同じ國民同士でもさうである、他人を見たら盜賊と思へと言ふ觀念が非常に深く刻まれて居る況や言語風俗の異なる外國人に對しては盜賊と思へどころではない恰も仇敵のやうに思ふて居るものもある。故に外國人と交際する日本人の覺悟の六分通りは敵愾心、三分通りは僻見根性が入つて居る。天真爛漫と云ふ言葉を能く使つて大層賞めて居るが其の天真爛漫なる所は交際上一分も有るか無いかと思はれる。

▲日本人は他人と交際するに外交的である、表面は斯う云ふ風であるが腹の中には屹度何か考へて居るだらうと西洋人は思つて居る。偶小泉ハーンの如き人は餘程日本人の心情を穿つて居るけれども、此の人は主として下層社會の者と交際つて所謂天真爛漫なる者共の實際を穿つて居る。併し中等以上の社會には殆ど淡泊な者が無いかと思はれる。日本人が外國人に接するに打解けて交はると云ふことはない。何時でも日本人と外國人と云ふ觀念を有つて居る。故に近頃外國人が澤山入込んで来るが唯皮相の觀察ばかりして、櫻花の話をしたり菊花の評判をする、人の事を言ふと今の交際場裡の内容は誠に淺薄なものである。夫れから市街の外観とかに限られて

(二) 鑑

嬢

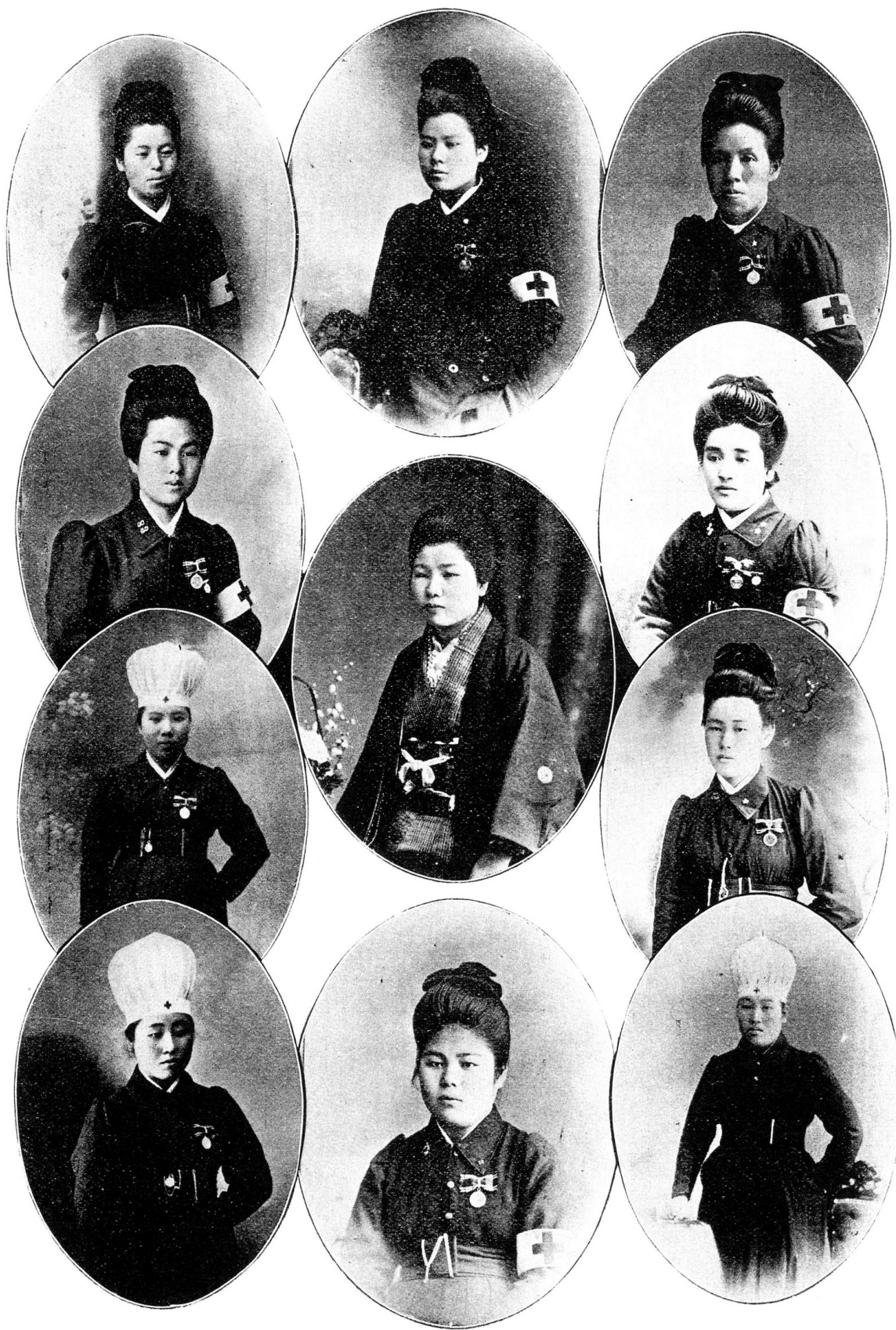
令

(左方)伯爵溝口直正氏第二の令嬢久美子嬢(十九)、(右方)伯爵前田利同氏令妹尚子嬢(十九)の肖像にして、二嬢とも今年學習院女學部を卒業されたり。



Left ; Miss Kuniko, second daughter of Count Mizoguchi. Right ; Miss Naoko, sister of Count Mayeda.

合 祀 さ れ た る 看 護 婦

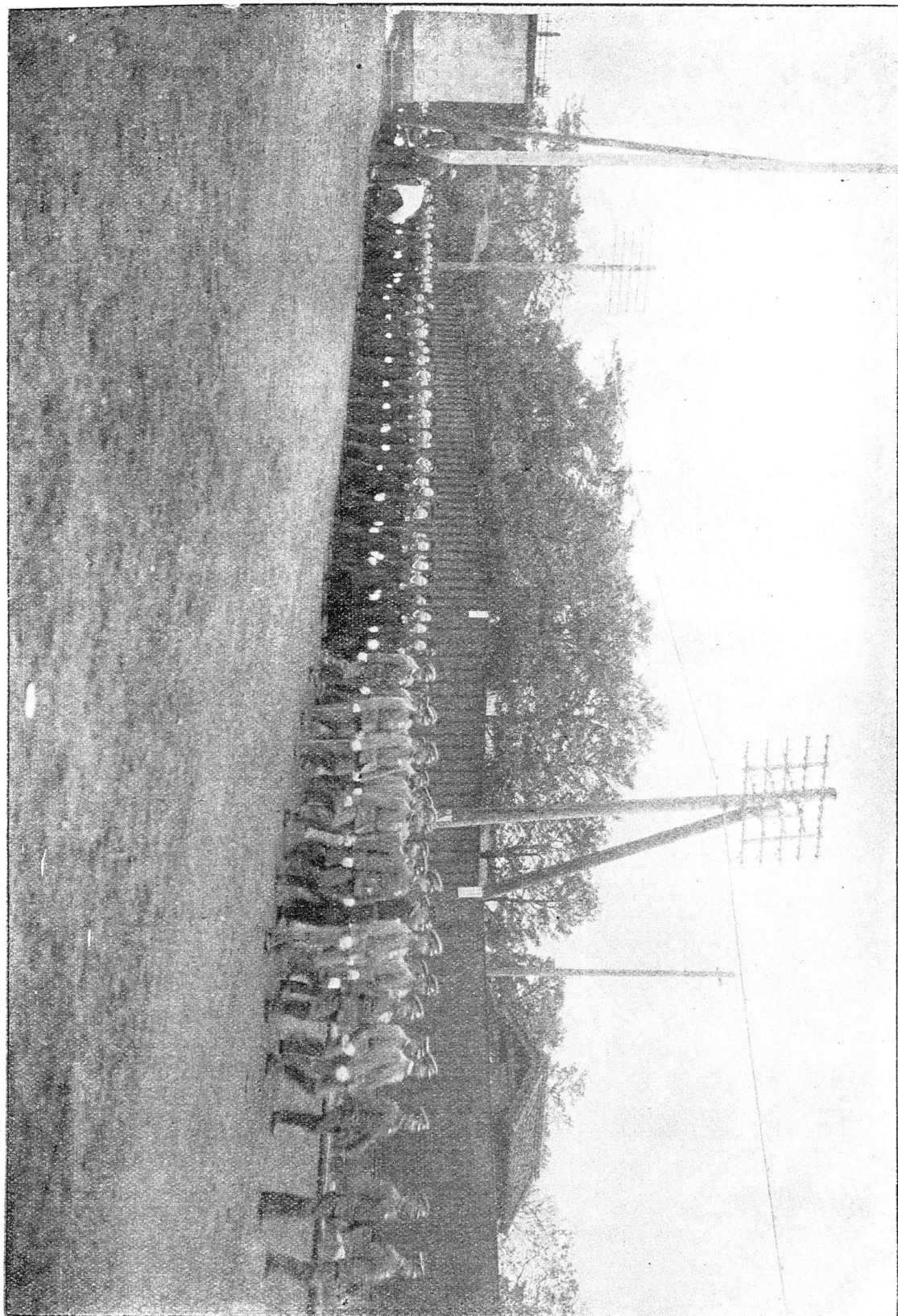


過般靖國神社臨時大祭の折、同社に合祀されたる名譽ある戦没看護婦諸氏の肖像なり。右列より縦に、和田みつ子、看護婦長土屋つぎ子、前田むら子、三宅けい子、中段大熊よし子、堀江たか子、知野やす子、左段加藤ふじ子、松村幸恵子。一柳つか子、堀せい子。

Red Cross Nurses, who died on duty in the late war and whose spirits were enshrined at the Yasukuni Shrine.

拜 参 社 神 國 清

清國神社臨時大祭の折日本赤十字社救護員参拜途次の光景なり。



Red Cross Nurses worshipping at the Yasukuni Shrine.